

なごや

H25.8 月号

にんちしょう NEWS

発行：名古屋市認知症コールセンター
n-renkei@samba.ocn.ne.jp
(千種区西部いきいき支援センター内)

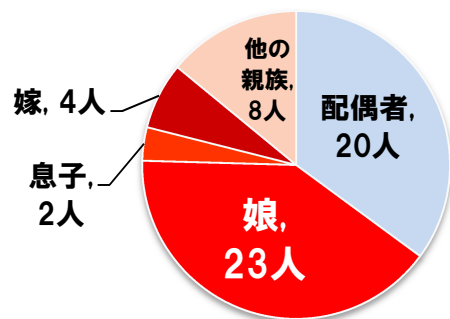
「にんちしょう NEWS」は、いきいき支援センターや地域のケアマネジャー向けの情報紙です。ご意見・お問い合わせは、☎763-1530までお願いします。

名古屋市認知症コールセンター実績報告

1日当たりの 平均相談件数	本年 4.5 月	本年 6・7 月	去年同期 (6.7 月)
	2.6 件	2.6 件	3.5 件

コールセンターの相談ケースから…

【高齢者世帯の相談はどなたからいただいているか？】



【相談実績】

対象者が高齢者世帯の場合、親族相談者の続柄内訳。(在宅ケース) (25.4～7月) N=57

コールセンターへの相談ケースにおいて、対象者の世帯状況が「独居」または「高齢者のみ世帯」の場合の相談者（親族のみ抽出）は左図のようになっています。「高齢者のみ世帯」の相談では「同居の配偶者」からの相談も多いのですが、「別居の娘」が相談者である場合が多い傾向があります。昨年度の実績でもコールセンターへのすべての相談者の内 3 割が「娘」からで、続柄の中でも突出して多い数でした。

必要な医療や福祉サービスなどの利用に至らないまま事態が深刻化しないよう、早期に「異変」に気づくことができるかが大切ですが、認知症の場合はご本人がそのような「異変」を自身で認識できていない場合が少なくないと思われます。そのような「異変」を感じ取るアンテナを持つ人が本人の身近にいるか、さらに適切な窓口へ SOS を発することができるか、が大きく状況を左右すると思われます。あくまでコールセンターに寄せられる相談の実績ではありますが、認知症をめぐる地域課題について色々なことを感じさせられます。

各区の実践より・・・

～西区「ほっとタイム」より～

認知症疾患医療センター看護師とケアマネジャーが意見をやりとり



西区ケアマネジャーの学習会「西区ほっとタイム」は「認知症のある方のケアマネジメント」をテーマに名鉄病院認知症疾患医療センター（以下疾患センター）を会場に開催されました（5月・6月の計2回シリーズ）。

5月は宮尾疾患センター長より、認知症医療の特徴として「介護が早期から必要になること」を前提に、

「早期発見・早期治療が重要」、
「生活圏域で医療と介護のシームレスな連携が必要」

等、疾患センターの機能と地域連携について講義がありました。6月にはグループワークが行われ、病棟看護師と地域のケアマネジャーと

の活発な意見交換がなされました（写真）。

グループワークでは具体的に病院で使用している、「看護サマリー」や「病棟⇄医療ソーシャルワーカー依頼箋」などの書式も示され、

「病棟がケアマネに求めたい情報とは？（その逆は？）」

「情報が必要なタイミングは？」

など、日頃の情報共有のあり方についてかなりつつこんだやりとりが交わられていました。地域の総合病院の看護師とケアマネジャーがこのような形で意見をやりとりすることは注目すべき取り組みかと思います。

「お互いの役割の違い」が際立つ場ではあったと思います。しかし、それはこのような機会があればこそ具体的な形で顕在化したものであり、今後の「医療と介護のシームレスな連携」の進展に繋がるものだと思います。

西区の医療・介護の連携への取り組み(※)は区内に疾患センターも加わり、さらなる発展を遂げつつあります。

※ 西区の「ほっとタイム」「医療支援事業を活用した医療との連携の取り組み」については当センターが各いきいき支援センターに送付いたしました「認知症に関する取り組みハンドブック事例1」に詳細がございます。ぜひご覧ください。